

教会学校 子供12/ 7 10 20 30
大人12/ 7 8 12 20
成人科12/ 7 0 5 5
主 日 礼 拝12/ 7 33 70 103
港 南 台 集 会12/10 1 4 5
入 門 講 座12/11 4 8 12

◇牧師室から◇

岩波書店が「教育をどうする」という本を出した。子供たちの荒廃した状況が新聞に載らない日はない。それに対し、三百名を越すいわゆる「有識者」が教育に関する短いコメントを書いている。主張はそれぞれ個性的である。

一流大学・一流企業を目指そうとペーパー上での偏差値を上げる競争が、管理・画一化をもたらし、人間として「生きる」ことの実感から遠ざけている。競争についていけない多くの子供たちは「存在」を否定されたように思い当然ねじ曲げられた反乱を起こす。

有識者たちは一応に、個性と独

創性、多様性（異質性の受容）、国際性などを育てることを強調している。子供たちを取り巻く、これらの問題は多くの人が分っている。要は、解放された教育環境・状況をどうしたら作り出せるかである。

子供たちの問題は、即大人たちの問題である。灰谷健次郎氏の「生命のかけがえのなさをいくら学校教育に求めても、人々が今ある社会の変革に無関心である限り、事態はいっこう変わらない」という指摘が最も当たっていると思う。国立がんセンター名誉総長の杉村隆氏は「一言で言えば、『教育をどうする』ということは、『自分自身をどうする』ということに他ならない」と書いている。私たちにできることは、時代の価値に流されないで、「私はこう生きる」ということを表わし続けることであろう。

あるがままの私で「良い」というのがイエス・キリストの福音である。この嬉しい受容が新しい自分を造り出し、隣人との創造的な共生関係を生み出していくと信じる。

週 報

1997年12月14日 降誕前第2主日

巻18

37号

1997年度 教会主題

「復活のキリストに会う」

聖句 すると、イエスが行く手に立っていて、「おはよう」と言われたので、婦人たちは近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。イエスは言われた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。

マタイによる福音書 28章9節～10節

- 目 標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 一つの奉仕を持って、教会の働きを分かち合う。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

〒234 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電 話 045-833-5323

FAX 045-833-6616

振 替 00290-4-13994

牧師 秋 吉 隆 雄